

学習課題（小学校4年生）



【国語】 計画を立てて少しずつ取り組んでいきましょう。

<学習内容>

◆「アップとルーズで伝える」（教科書 50～55 ページ）に取り組めます。

① 4～7 段落の中で、二つの例を対比しながら筆者の考えを伝えています。

(1) 対比している段落はどれとどれでしょう。下の表に数字を書きましょう。

(2) 各段落から、当てはまる言葉や文を見つけて、右の表またはノートや取組シートにまとめましょう。

(3) 「アップ」と「ルーズ」を対比して説明することのよさを、ノートや取組シートに書きましょう。

伝えられないこと	伝えられること		
	の様子 ()	()	第()段落
	の様子 ()	()	第()段落

② 筆者の考えについてどう思うか、本文を【引用】したり、【具体例】を取り入れたりして、ノートや取組シートに書きましょう。

※例や「思いやりのデザイン」で書いた文を参考にしましょう。

- 例**
- ・筆者は、「どちらで伝えるかによって伝わる内容が変わってしまう場合があります。」と書いていました。ぼくも…
 - ・わたしは、テレビのニュースを見ている時に、見せる画面によって伝えたいことが違うのだと思いました。例えば「ルーズ」で多くの人をうつした時は…

◆「一つの花」で学習する新出漢字（泣～特まで）をノートに練習します。（読み方や書き順は 154～155 ページにのっています。）

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

- ・①の学習は、教科書から言葉や文を見付けることがポイントです。「伝えられないこと」を探す際には、『しかし』や『でも』という言葉の後ろに注目すると、見付ける手がかりにもなります。

【社会】

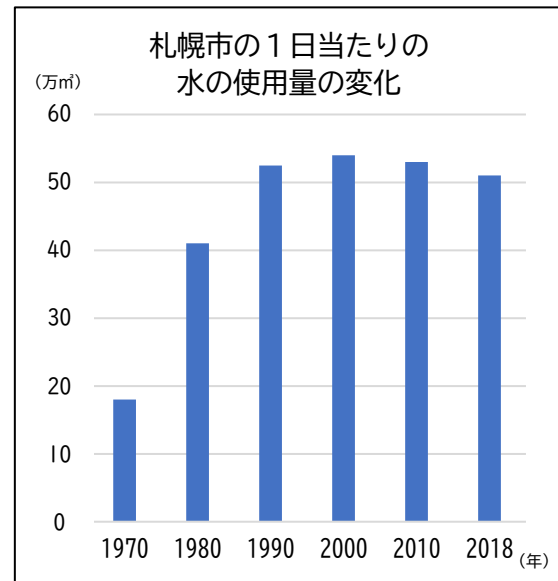
<学習内容>

◆「生活の中での水の使われ方」「水のじゅんかんについて考える」（教科書 56～59 ページ）や地図帳、持っている資料などをもとに、生活に欠かせない水について調べ、取組シートやノートに取り組もう。

ことば（教科書 P57）

(1) わたしたちは、大切なしげんである水を、日ごろどのような場面で使っていますか。考えて、いくつか書いてみましょう。

(2) 右のグラフは、「札幌市の1日当たりの水の使用量の変化」のグラフです。グラフを見てわかることを2つ以上書きましょう。



※「2000年までは～」 「2000年よりあとは～」など変化に注目しよう。

※「m³」は「立方メートル」といって、たて、横、高さがそれぞれ1mのようきに入る量のことです。

(3) 教科書 58 ページ「水のじゅんかん」の図を見ながら、水のじゅんかんについて考え、下の（ ）に言葉を入れよう。

- ・（ ）や地上にある水が、水じょう気になって（ ）がふる。
- ・雨になってふった水は、（ ）や地下などを流れて、さいごは（ ）に出る。

(4) 札幌市には 196 万人ものたくさんの方が住んでいるのに、どうしてわたしたちは、いつでも安心してきれいな水を使うことができるのでしょうか。自分の考えを書いてみましょう。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆「水の使われ方」

・グラフの変化の傾向を読み取り、その上でなぜそのような変化が起きたのか予想したり一緒に調べたりすると、考える力が育まれていきます。

【算数】

「※」は学習するときのヒントです。

※わり算の筆算は、
まだ習っていないよ。
どうやってやるの？



＜学習内容＞

◆「わり算の筆算」（教科書 28～29 ページ）

72 ÷ 3 の筆算のしかたを考えましょう。

- (1) 青四角の中に当てはまる数や式を書きましょう。
- ※筆算のしかたは、図とつなげて考えるとおぼえやすいよ。
- ※かけ算の筆算と同じように、位ごとに計算してみよう。

十の位の計算

①

2		
3	7	2

$7 \div 3 = \square$ あまり \square

\square を十の位にたてる。

※10のまとまりを7つ分とみて考えるよ。

10	10	10	10	1
10	10	10		1

十の位の計算

②

2		
3	7	2
	6	

3に2をかける。

$3 \times 2 = \square$

※10のまとまりが \square つ分だね。

十の位の計算

③

2		
3	7	2
	6	
	1	

7から6をひく。

$7 - 6 = \square$

※この \square は、残った10のまとまりを表しているよ。

一の位の計算

④

2		
3	7	2
	6	
	1	2

\square の位の2をおろす。

一の位の計算も、「たてる」「かける」「ひく」をくり返す。

1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1

一の位の計算

⑤

2	4	
3	7	2
	6	
	1	2
	1	2
		0

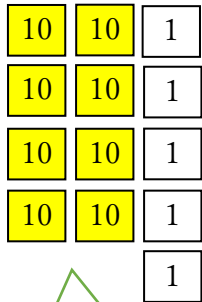
※ぴったりわり切ることができたね。

10	
10	

1
1
1
1

85 ÷ 3の筆算のしかたを考えましょう。

(2) 下の青四角の中に、図や言葉をかいて、85 ÷ 3がどんな計算になるか考えましょう。



※位ごとに分けて考えると…

あれ？ あまりが出たよ。筆算ではどうやって表すのかな？



あまりのあるわり算の時は、どんな筆算になるのかな。

(3) マスの中に数を書いて、筆算を完成させましょう。

※まず、十の位に数をたてよう。

※かけて、10のまとまりが何こ分かを求めるよ。

※一の位の5をおろそう。

※8からひくよ。

※十の位と同じように計算するよ。

(4) 答えのたしかめをするため式の青四角の中に数を書き入れましょう。

$$3 \times \square + \square = 85$$

(5) 教科書29ページの④と⑤の問題に取り組み、ノートか取組シートに書きましょう。
※筆算を使って求めてみよう。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆わり算の筆算（教科書 P28～P29）

- ・わり算の筆算では、4つの手順「たてる→かける→ひく→おろす」を覚えるだけでなく、図などのイメージと手順を結び付けて意味を理解できることが大切です。「この1は何を表しているの。」などと問いかけた後、図や言葉を使って考えたり説明したりする姿が見られたら褒めてあげてください。

【理科】

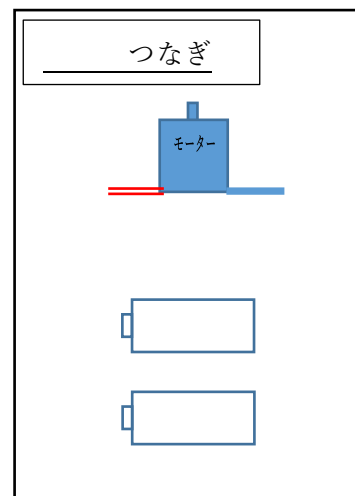
＜学習内容＞

◆「電流のはたらき」（教科書 45～46 ページ）を見て、モーターをもっと速く回す方法を考えてみましょう。

①モーターをもっと速く回す方法を調べるために、かん電池を2個に増やしてモーターを回す実験をすることにしました（45 ページ実験2）。

右の図は、かん電池2個とモーターを表した図です。モーターをもっと速く回すためには、どのようにつなぐとよいか考え、取組シートやノートに図をうつして、どう線をかきましょう。

※いろいろなつなぎ方をかきましょう。



②結果（46 ページ）を確認し、自分の考えたつなぎ方は、直列つなぎなのか並列つなぎなのか考えて、どう線のつなぎ方をかいた図へ書きこみましょう。

※どう線を指でたどってどのようにつながっているか考えよう。

③直列つなぎと並列つなぎでは、モーターの回る速さがちがったようです。どのようにちがったのか結果（46 ページ）を確認し、つなぎ方によるモーターの回る速さのちがいを取組シートやノートにかきましょう。

※直列つなぎと並列つなぎのどちらのつなぎ方でモーターが速く回ったかな。

【動画を参考にみるのもよいでしょう】

NHK for School 「電池のつなぎ方と電気の強さ」

https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005301008_00000&p=box



＜保護者による関わり方のポイント＞※可能な範囲でお願いします。

- ・この学習では、乾電池を2個に増やすと、つなぎ方によってモーターの回る速さが違うことに気付くことを大切にしています。
- ・「モーターから導線は、どこにつながっているのかな。」「回路は分かれているのかな。」など、導線のつながり方を調べられるよう声をかけてあげてください。

【体育】

けがをしないよう、まわりをよくたしかめて取り組みましょう。

＜学習内容＞

※動画を見られる場合は、右のQRコードを使ってください。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/shido/nawatobi.html>



◆「なわ跳び」に取り組みましょう。

色々な跳び方で「前とび」をしてみましよう。跳び方を工夫するだけで、なわ跳びが楽しく、上手になりますよ。

○前とびの基本



前とびのコツは、脇をしめて手首を早く回すことです。脇に本を挟んでいるつもりで跳びましよう。また、つま先で着地すると上手に跳ぶことができます。30秒で70回程度跳べるようになると二重跳びができるようになると言われているので頑張りましよう。

○ベル・スキー



ベルは前後にスキーは左右に跳びます。

○グーチョキパー



前とびをしながら、グーチョキパーで着地をします。

○ケンケン



前とびをしながら、ケンケンをします。左右どちらでもできるようにましよう。

※余裕があれば「後ろとび」など、他の跳び方にも挑戦してみましよう。くり返し取り組みると、じょうずになりますよ。

＜保護者による関わり方のポイント＞※可能な範囲でお願いします。

・跳んだ回数を数えてあげたり、こつをうまく生かして跳んでいる姿を褒めてあげたりして、継続して取り組む意欲へとつながるよう声をかけてあげてください。